



# 冬季オリンピック カウントダウンレポート⑨

平昌の新しい年が明けた ～オリンピック成功開催念願の大鐘が鳴る～

2018年の冬季オリンピックが開かれる平昌で、オリンピック開催の成功祈願を込めて作られた大鐘をつき、ムスルニョン(韓国では60年に一度の縁起の良い戌の年とされている)新年の幕を開けました。

平昌文化院は2017年12月31日午後10時から郡庁広場で、この大鐘シムジェグックで除夜の鐘をつく行事を行いました。この行事では沈在國平昌郡守、ユインファン劉仁煥平昌郡議会議長などの機関団体長と地域発展功労者、郡民代表者などが鐘を鳴らしました。

この鐘は平昌にあるお寺「上院寺」の銅鐘(国宝36号)の外形をもとにつくられており、力強い鐘の音が長く鳴り響くように、鐘の下に音を拾ってくれる木を細く切り厚く敷きました。

この大鐘の製作・鐘つき堂の建設総事業費17億6千万ウォン(約1億7千6百万円)のうち2億6千900万ウォン(約2千6百万円)は平昌郡民をはじめ、地域機関と社会団体、平昌出身者などから寄付されたもので、この鐘について新年を迎えることは格別の意味を持ちます。

また、冬季オリンピックのスキー競技が開かれる旌善でも平昌と同様の除夜の鐘をつく行事、新年の祝賀式が行われ、風船を飛ばしながら一年の多幸の祈願とともに冬季オリンピックの成功開催を祈願しました。



元若桜町交流職員 李美眞